

平成29年10月定例教育委員会会議録

平成29年塩尻市教育委員会10月定例教育委員会が、平成29年10月26日午後2時、塩尻市保健福祉センター3階市民交流室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 11月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 塩尻市教育振興審議会委員の委嘱に係る教育長専決報告について

4 議 事

- 議事第1号 社会教育主事の発令について
議事第2号 平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

5 その他

6 閉 会

○ 出席委員

教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委 員	石 井 實	委 員	林 貞 子
委 員	嶋 崎 栄 子		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部こども教育担当部長（新体育館建設プロジェクトリーダー）	中 野 昭 彦	こども教育部生涯学習担当部長（市民交流センター長・図書館長）	中 野 実 佐 雄
こども教育部次長（家庭支援課長）	百 瀬 公 章	教育総務課長	太 田 文 和
こども課長	青 木 正 典	生涯学習スポーツ課長（新体育館建設プロジェクトサブリーダー）	胡 桃 慶 三
平出博物館長補佐	小 松 学	男女共同参画・人権課長	石 川 忍

市民交流センター次長（子育て支援センター所長）	赤津 廣子	交流支援課長	小松 秀樹
交流支援課市民活動担当課長	山崎 浩明	図書館副館長	上條 史生
主任学校教育指導員	黒澤 増博		

○ 事務局出席者

教育企画係長 横山 朝征

1 開会

山田教育長 皆さん、こんにちは。ただいまから10月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願ひいたします。

台風が去ってようやく長い長い雨が上がり、秋らしい青空が戻ってまいりました。ことしも早くも10月の下旬を迎え、ここから見るアルプスにも雪が訪れ、里でもここかしこに秋の深まりを感じるようになりました。

さて、政権選択選挙と言われた第48回衆議院議員総選挙が終わり、与党が3分の2を超える議席を獲得するという結果となりました。それぞれの党が公約を掲げ、選挙戦を繰り広げた結果であります。当選された各国会議員には国民の願ひに再度しっかりと耳を傾けていただき、国政においては教育を含め数々の課題があるわけでありますので、国民にわかるようにしっかりと議論を重ねていただき、未来に向けたよりよいかじ取りを行っていただきたいと切に願ひまして先に進めさせていただきます。

2 前回会議録の承認

山田教育長 それでは、次第に従いまして2番、前回の会議録の承認について事務局から願ひいたします。

横山教育企画係長 前回9月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議の終了後に、御署名をいただきますのでよろしく願ひいたします。以上です。

山田教育長 よろしいでしょうか。それでは、そのように願ひをいたします。

3 教育長報告

山田教育長 それでは3番、教育長報告に移ります。今回は、前回から今回までの幾つかの行事のうち、市内各中学校の文化祭や中学校の合同音楽会について、また保育園保護者会連合会役員との懇談会を行いましたので、その様子、またそこから感じたことについて報告をさせていただきたいと思ひます。

初めに、市内各中学校の文化祭や中学校合同音楽会についてであります。中学校の文化祭は、私自身は2日目の参観のみでありましたので、ほとんどの学校が音楽会ということでありました。そこで、合同音楽会も含めて音楽会の様子について報告をさせていただきます。各校の文化祭、それから合同音楽会ともに感じたことを一言で言うとなると、生徒が歌う気で歌い、聞く気で聞く充実した音楽会ということではなかったかと思ひております。歌う気で歌うとは、聞く人に何を伝えるのかということや、そのために私たちはどう歌うのかを共有し、自分が主体となって仲間との響きを意識しながら意志を持って歌うことです。また、聞く気で聞くということは、どのような表現で、

自分たちに何を伝えようとしているのかを集中して聞くということでもあります。こうしたことがどの学校でも実現できているということは、生徒の心が内と外に開かれていることを表しているのではないかと私は思い、市内の中学生が望ましい方向に成長してきていると捉えてもよいのではないかと思います。

音楽会のこととは少しずれますが、丘中学校科学部の研究実践が天文学の専門雑誌、これは『月刊星ナビ』という雑誌ですが、その中で国立天文台副台長によって絶賛されたということがありました。そこでは、中学生としての研究の深さと質の高さへの驚き、またふくしま星と宇宙の展覧会での堂々たる研究発表などについて触れてあり、文末には、「それにしても教育県の底力を見せつけられたという思いは深くなったのである」というようにまとめられておりました。本当に宇宙の専門家から絶賛されるということはとても素晴らしいことだと私は思いました。

文化祭では、音楽会のほかさまざまな発表がありました。合唱を含め意見文発表、総合的な学習の時間の発表、また作品展示発表など、中学生が教職員や地域の方々によって深い学びにいきなわれ、主体となって学びを重ねた質の高いものであったかについては、各校で再度評価しなければならないと思います。そしてこれからも中学生の持つ無限の可能性を私たちは信じて、その秘めたる力を引き出していきたいものだと思ったところであります。

次に、保育園保護者会連合会役員との懇談会について報告いたします。懇談会では、子育てと仕事を両立できる環境づくりについて10名ほどのグループを幾つかつづいて話し合いが行われました。その中で、きょうは私が気になったこと1点に絞って報告をさせていただきます。それは、私が一緒に話をしたグループの保育園の役員の保護者の皆さんからメディアに頼っている状況が多く語られたことです。こんな言葉がありました。「家事中の子供の相手はテレビやゲームです」また、「困ったときの最終手段はDS、携帯のユーチューブ、テレビです」、さらに「スマホ、タブレット、テレビと、もしかしたらネット依存といえるかもしれません」といった言葉なども出てきました。心配されている育児の中でのネットへの依存が進行している実情が見えました。もちろんその話し合いの中では、子供を1人にさせないとか、工夫して手伝いをさせるとか、なるべくテレビを絵本に切りかえるとか、外に連れ出して遊ぶなどの声もあり、ほっとしたところですが、家庭でのメディア依存が大きな課題であることは間違いないなということがわかりました。保護者の皆さんは、もうこのことが決してよいとは思っていないわけですが、そうせざるを得ない状況が親にも子供にも進行しているのではないかなと、いかにしても難しいそうした問題であるかなというように思われました。県では教育グローバルプランでスイッチを切ること、本を読むこと、汗を流すこと、挨拶、声がけをすることをすすめておりますし、また本市でも、早ね早おき朝ごはん・どくしょ市民運動を進めています。こうした運動の趣旨にも立ち、科学的な視点からメディアに頼る育児のメリットもあるかなと思いますけれども、デメリットもあわせて明らかにし、保護者に対してしっかりと啓発を進めたり、メディアに頼らない育児のアイデアを紹介したりする、そうした取り組みを急いで進めなければならないなど、そのようなことを思われた懇談会でありました。

今回、主な行事報告の内容のほか、また委員の皆様方、それぞれ中学校の文化祭等々さまざまな行事に出向いていただいておりますので、この後、お気づきの点がありましたら発言をお願いいたします。以上で私からの報告を終わります。

教育長報告について御質問がありましたらお願いをいたします。

石井委員 私も西部中へ行かせてもらいました。開会式が済んでから、パネラーがいて、それで意見発表というようなことでもって討論をしていくというようなことがありまして、開会式が終われば退席しようかなと思ったけれども、それが気になりまして見てみました。ずっと6人の発表者があ

って、それに対して、パネラーがいろいろなと質問をしていくというようなことでありましたけれども、1つコミュニティ・スクールでもってこれが生きているなというふうに思ったのは、消防の分団長を呼んで、消防はどんなことをしているのかとか、どんなぐあいになっているのかというようなことでもって討論したというようなことがありました。こういう場へ社会人が行って分団長が行ってそこでもっていろいろと答弁したり、それから予算の面や何かそういう話がされました。それはやっぱりコミュニティ・スクールの1つの生きた証かなというふうに感じてきました。

それから、もう1つこの意見発表で驚いたっていうと、私が遅れているかなというふうに思いますがけれども、性同一性障害の問題について堂々と議論を交わしていました。中学校でこんなところまでやるのかな、これでいいのかなというふうな私には、古い人間かなと思ってきたわけですが、そんなことが今の中学生では堂々と語られているということでもって、ちょっとびっくりしたっていうような感想を持ちました。皆さん方どういうふうにお考えでしょうか。そういう人はどっちのトイレに入るのかとか、そんなことまで話し合いをしていましたのでね、ちょっとびっくりしたわけですが。また先生方の御意見があればお聞きしたいな、なんて思って聞いてきました。以上です。

山田教育長 今の消防の分団長を呼んだっていうのは、中学生の意見文の発表にかかわることで呼んであったんですか。

石井委員 ええ、それに返答をするということでもって。消防団員は幾日くらい出動するんですかとか、その予算はどうなっていますかとか、日当は出ていますかとか、そんなことの質疑応答で、分団長がそこで答えているということです。

山田教育長 わかりました。性同一性障がいについてのこの話ということについては、委員の皆さん、どんな感想を持たれましたか。

石井委員 もう当たり前だね、そういう時代かね。

林委員 今は、メディアにそういう方たちがいっぱい出てきているので、昔みたいに、表に出れないという時代ではないと思います。その人たちもしっかり自分の立場というものを別に隠すことではないというふうに関心生活しているので、やはり子供たちもそれを大事な問題と捉え、討議したり、そういうふうに関心を持っているということはすばらしいことだと思います。

石井委員 嶋崎委員は、子供の親としてどうでしょう。

嶋崎委員 私たちが昔のころよりは、やっぱりメディアで見る機会が多いので、そんなに今の子は抵抗がないのかなっていう気もするんですけど、まだうちは小学生なので話し合うっていうところまでは行かないですが、中学生がどんな話をしたのかは興味がありますね。

林委員 その同級生の中にも、もしかするとそういうようなことで悩んでいる子いるのかもしれないね。

石井委員 どっちのトイレへ入るのっていうことまで出たんだから、その学校にそういうのはあるのかな、なんて思ったりして聞いてきたんですが。

中野生涯学習担当部長 今、トイレ表記のマークのことも議論がされてきているので、多目的トイレのところに男性女性という表記をつけないとか、両方の表記をつけてあるケースもあります。そのような議論が出てきていますので、公共施設などでも、そういった議論は必要であると思います。

山田教育長 恐らくその議論の中で、中学生はやっぱりあくまでも興味本位に走らない、何ていいますかね、正しい知識、理解を持つようにしないとイケないだろうと思いますけれども。でも全体の場で話題になるということは、本気に考えなければ全体の中では話はできないので。

石井委員 それで、その発表者がいて、それに対する質疑応答が一般のこっちのパネラーだけじゃなくてみんなにも質問があるかっていうことで聞いていました。それで質疑応答しているわけです。

山田教育長 それでは、今のことのほかに質問、御意見ありますでしょうか。

小澤教育長職務代理者 メディア依存について、一言いいですか。きょうも、ある全国紙にその実態の紹介がありました。これだけメディアが発達してくればしょうがない面もあると思います。しかし、こうやって保育園の保護者の方々が自分の弱みとか悩み事をストレートに話せる、こういう場ってというのはうんと大事じゃないかなと、そんなことを感じました。私自身も孫を預かっているときに、ちょっと仕事が出てくると、「テレビを見ていなさい」とかで、メディアを使うんです。うまく利用しているなど、そんな思いでやっています。願わくば、メディアと共存するというか、助け合うというか、お互いに利用し合う、そんな関係が結んでいければいいなと思っております。

石井委員 そういうディスカッションの中でね、本当に正しく教えを受けているか、正しく理解ができるかっていうことも1つの問題点かなと思います。

山田教育長 それでは、先へ進みます。

○報告第1号 主な行事等報告について

山田教育長 それでは報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。資料1ページから5ページまでです。事務局より、それぞれ主要な行事について説明をお願いいたします。

胡桃生涯学習スポーツ課長 それでは、資料の1ページ2段目をごらんください。第31回全国短歌フォーラム in 塩尻の開催でございます。実施されましたのは、9月23、24の両日でございます。レザンホールにて1日目の投稿歌の選評、表彰式等を行い、またトークイベントとして松田梨子さん、わこさんと穂村弘さんの対談として、ちょっと趣向を変えてトークイベントを行いました。投稿者数は1,391人、投稿歌数は2,671首でございました。また当日の様子は、去る10月21日、NHKEテレにて放映をされております。2日目は、短歌館を中心に塩尻みである記「短歌の里めぐり」を実施いたしました。広丘小学校6年生の生徒さんの御協力を得て広丘短歌公園等の御案内を参加者の皆様に行い、交流を深めていただきました。塩尻市の文化である短歌を通じ豊かな心を育む教育文化のまちづくりを推進するとともに、大会の様子を全国放送することで短歌のまち塩尻を全国発信することができたと思います。また、会場前では短歌館の協力会等の皆さんの御協力により特産品の販売や抹茶サービスなど、全国から集まった短歌愛好者に塩尻をPRし、楽しんでいただくおもてなしを実施したものでございます。ただ、当日の来場者の減少による大会内容の見直し等が必要であるというように感じております。

続いてその下、第65回長野県公民館大会でございます。9月28、29日両日にわたり実施いたしました。メイン会場はレザンホールでございました。県下の公民館長・主事らが集い、公民館活動のあり方や地域活動の活性化について学び合ったものでございます。本市での開催は平成9年度以来20年ぶりの開催で、2日間合わせて435名の参加がございました。400名を超える参加者があった大会は4年ぶりであり、盛会に終わったものでございます。地元からも今大会を市内公民館役員の研修の機会と捉え、本市からも64名の参加をいただき、地区公民館だけでなく分館からも39名の分館長が参加した大会でございました。2日目は、分科会を10分科会に分けて実施し行ったものでございます。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

赤津市民交流センター次長（子育て支援センター所長） 続きまして、市民交流センターの行事報告を行います。4ページをごらんください。一番下になりますけれども、支援センターでは9月30日土曜日に子育て支援講座といたしまして「ベビーマッサージ&命の学習」を開催いたしました。内容ですが、前半はお母さんが赤ちゃんをマッサージするというので、ベビーマッサージの手技を助産師の方から学びまして、親子の愛着形成という形を促す実習を行いました。その後小学生、

それから高校生が同じところに参加しまして、ベビーマッサージを見学したり赤ちゃんに触れ合いながら命の尊さについて学びました。当日の参加者の中で小学生2名、それから中学生の参加はありませんでしたが、高校生が8名と、計10名の参加がありました。当日は土曜日ということもありまして、お父さんの参加もありました。熱心にお話を聞いたりして、それぞれ取り組む姿が見られました。マッサージの終わった後は小学生、高校生、それから保護者の人、みんなフリーな時間ということで、それぞれ赤ちゃんをだっこしたり触れ合うことをして有意義な時間が持てました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

上條図書館副館長 資料5ページお開きください。下の段にございます催しで、信州しおじり本の寺子屋講演会「行きつ戻りつ絵本創り」、講師にとよたかずひこさんをお招きしました。著名な絵本作家を招いての講演会を図書館と市民読書活動グループ連絡会、塩尻市PTA親子文庫の3者の共催で本の寺子屋の一環として行いました。どのような思いを込めて絵本をつくるのか、素案の段階から出版社の編集者とのやりとりなどの話にくわえて、紙芝居も含めまして多くの絵本を読み聞かせの実演をしてくださいました。そんな中で、子供たちに絵本を紹介する立場で読書活動をしている皆さんが大いに学んでいただきました。午後1時半から2時間程度の講演会でしたが、講演会の前後に書店組合によってとよたさんの絵本を販売していただきまして、かなりたくさん御購入いただき、講演に引き続きましてサイン会を行いました。ここでは1冊1冊に絵本の種類ごとにとよたさんが色のついた絵を描いてくださいまして、結果的には午後7時半の電車でお帰りになったんですけれども、その直前までそのサイン会を、講演会よりも長い時間一人一人の方と会話をしながら行っていただいたのが大変印象的でした。以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様方から御意見ありましたらお願いいたします。

林委員 このところに出ているe-Life Fairのことですけれども、一応給食レストランということで、10月1日に行われましたが、10月1日は松本マラソンだった為、吉田地区では、午前8時半くらいから11時半くらいまで車を出すことができないような状態になっていました。こういう事は、いろんな都合で仕方がないと言えばそうなのですが、少し配慮していただきたいなあという思いがあったので、吉田地区に住んでいる住民として、一言言っておきます。

山田教育長 e-Life Fairにあわせてあるので何とも言えないですかね。

林委員 仕方がないとは思いますが。

山田教育長 ただ、そういう状況があるということをもた、e-Life Fairの担当のほうにも話しておいていただければというように思います。よろしく願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

小澤教育長職務代理者 それでは、ここに掲載されていないことでも。

山田教育長 どうぞ。

小澤教育長職務代理者 それでは、3点について、学校関係のことでお願いします。新聞あるいはチラシで報道されておりますけれども、市内各地で芸術文化にかかわる催しが開かれております。きょうは学校関係のことについてちょっと述べてみたいわけでありまして。先ほど教育長の報告のとおり、文化祭とかあるいは小学校の音楽会、保育園では運動会と、地域の主役がそれぞれのステージで活躍している、そういう姿を見させてもらっております。地域の方は喜んで参加して、若者の育っていく姿を期待を持って見守っている、こんなことがよくわかります。

そこで、初めに小学校の音楽会を参観して感じたことであります。私の参観したある小学校。この学校の中学年は4月から学級づくりにつまずき、市内の校長会あるいは市の教育委員会の事務局

も相当に悩み、てこ入れをし、一緒に歩んできた学級であります。私もこのことを知っておりますので、注目しつつ参観したわけです。順番がめぐってその学年の出番であります。途端に会場はピーンと緊張感が走りました。これは地域の人も、これをよく知っている証拠だろうと思います。いざ、演奏が始まると、まあ見事。その統制ぶりというかまとまりというか、気持ちがピーンと一本につながっているわけであります。悩んで、悩んで悩み抜いたその成果がよく住民に伝わってきた、あらわれていた。その歌声も私の耳からすれば、学校で一番響いていたように思います。やっぱり荒れるようなクラスは、力があるんだなあ、エネルギーがあるんだなあ、そのはげ口がちょっと違っているんだなあということ、まざまざと見せてくれたわけであります。終わったらその拍手というのは、それは大変なものであります。

その当該学校では、荒れ始めから学校でも相当に悩んでいたようであります。そして、学級がなぜつまづいているのか、なぜこうなっているのか、先生方で検討して要因を探り、ようやくこの音楽会を機にそのつまづきの要因の1つを探り当ててきたようであります。それは、低学年のときにつけるべき力をつけてこなかった。低学年というのは、教師が力でやればそれに従ってくる。だから育つべきものが育っていなかったというようなことがわかってきた。これはどこの学校にも言えることなんです。中学年で学級経営がつまづくことは、大体低学年に原因がある。それを校長はよくよく認識して指導に当たらなくちゃいけない、そのことをよく教わったといいますか、実感したわけであります。この学校の先生方は、本物を子供から学んだと思います。よく学校では子供の姿から学べと言われるわけでありませけれども、その具現がよく見てとれ、今後に期待したいなあ、そんなことを思いました。

2つ目は、中学校の音楽会であります。さすが中学生。しかも義務教育最後であります。最終学年の晴れ舞台、このことをよくよく認識している市内の中学生でありました。特にある中学校の歌声は、胸にグーンとくるものがありました。学校訪問の中でこの中学校の先生方と話をすると、文化祭の合唱発表会をゴールとして、頂点として、それに向けて4月から積み重ねている、その積み重ねは毎月ごと、月ごとに発表会を持っている。だから、いつでもゴールに向かって緊張感を高めていくと、こういうプロセスを先生方は作っただけです。よく学校では、歌声で学級づくり、学校づくり、人づくりをと言っているわけでありませけれども、まさにこの学校の歌唱発表というのは、その具体的な姿だなあと思ひ、歌う力のすごさをこれまた実感したわけであります。

加えて、最後に校長会で講評を言ったわけでありませけれども、これがよかった。東小から行った方ですが、中学にぴったりの校長だなあと思ひ改めて思ったわけです。講評の内容もよかったが、もっとよかったのは、その校長先生は市内の男性コーラスにも参加していて歌には自信があったが、コーラス仲間に、子供の前はやめろと言われたが、俺はここで歌いたくなると、そして独唱したわけであります。最初は声が震えていたんですが、会場から先生と一緒に歌う歌声が加わってき、生徒の歌声が、それがエネルギー、力となって、校長さんは実力以上の声が出てきた。私にとって、このような場は初めてでした。こういうように校長を支える中学生の感性、校長に感応する心根、自然な中、歌声に加わる姿、塩尻の中学生の育ちのよさに胸が震えました。いい子供たちを先生方、事務局の皆様は育ててくださっているなあ、そんなことを思ったわけです。さあ、あとはお前たち、入試に頑張れよと、そんな思いでありました。

ついでに、小学校の音楽会当日は土砂降りの雨でした。それはすごかった。そこで、今まで車で学校へ行くことを遠慮していた親はみなして車で行くわけです。その学校には広い駐車場があったが、あまり停まっていなかった。おかしいなあと思ひながらよくよく見たら、水たまりでとてもおりられない。だから使えないんです。相当困ったと思います。だから、駐車場以外の場所に駐車したらしい。事務局の担当の方には申しわけありませんが、各校の駐車場の具合はどうなのかを点検

していただいて、水たまりに砂利を入れてもらえればありがたいと、そんなお願いであります。

長くなっていいですか、済みません。3つ目、小中学校の教育課程研究協議会がありました。これは学校や教育関係機関にとっては大事な行事であります。当日の小中ともに取り上げた題材は、日常生活の中に何気なくあるものをすくいあげて、それを題材に、子供との学習材にしてくださいとありました。だから、教材と子供たちの間の距離は非常に近い、これはいいなあと思ったわけがあります。ここで、先輩顔は禁物ですが、この教材で子供たちはどんなことをしたいのか、子供がこの教材に何を願っているのか、それをうまく学習展開に持っていく、その力がもう少しだなあというようなことを思ったわけがあります。こういう思いは年々強くなるんです。特に子供の姿に寄り添った学習展開をなんて、県を初め市町村の教育長さんたちはよくよく言うわけですけど、ちょっとその具体はいかがかなあ、そんな思いがするわけです。自分なりにその要因を検討してみますと、教材研究をする時間がないのか、やりたくてもやれないのか、あるいは教師の熱意不足なのか、あるいは教材を解釈する力が弱いのか、ここら辺のところをまた市の黒澤先生を中心に学校現場で求めていただければありがたいと、そんな思いであります。でも、授業研究会は非常に活発でありました。私たちのころはみんな下を向いて早く終わらないかなあというように、つらい時間であったわけですが、今はグループトークやなんかで、どんどん手を挙げて楽しくやっているわけです。えらいさま変わりで、まあそれはそれでよしと、いいなあと思いました。そこで話合ったことが授業改善につながってくれば最高だなあ、そんなことを思った10月であります。

最後に、ちょっとお聞きしたいですけど、紙おむつの問題です。先日、ある全国紙に、使用済みおむつの持ち帰りについての報道がありました。それで、持ち帰りについては衛生上好ましくないということで、あるところは実費で、あるいは無料で園が処分する。あるところは、ふたつきのバケツの中へ入れて、そしてビニールに入れ各家庭へ持って帰って家庭が捨てる。こういうような方法をとっていて、塩尻市はふたつきバケツだと思います。使用済みおむつの扱いについてはいろいろの説があると思いますが、多分これから塩尻市でも話題になってくると思います。今の段階で、事務局としてはこれに対してはどんなお考えでしょうか。そのことをお聞きしたいと思っております。以上です。

青木こども課長 紙おむつの問題でございますけれども、今、職務代理さんがおっしゃられたように、塩尻市の場合には個々にふたつきのバケツを用意しまして、使用済みの紙おむつはそこへ入れまして、におい等もありますので、二重、三重のビニール袋に入れてそれぞれ持ち帰っていただくというところを行っております。これにつきましては、やはり保育園で処理をすることになりますと相当の量になりますし、可燃ごみを出す日も限られていることから、毎日出せるわけではありません。それから、基本的に紙おむつを交換したときは、中身といいますか、はトイレのほうへ流して処理するわけですが、状況によっては、保護者の方が1日のお子さんの便の様子で体の調子なども見ていただきたいということもありますので、そういった理由で、持ち帰りをお願いしております。時々、保護者の方からは、保育料を払っているのだから、おむつは保育園で処理をしていただけないかという要望がないことはないんですが、今言った事情をお話する中でそれぞれの御家庭で持ち帰っていただくようにということで、御協力をお願いしている状況であります。

山田教育長 小澤委員さん、いいですか。

小澤教育長職務代理者 保育士さんにとって紙おむつの扱いは気をつかうと思います。ですから負担軽減という面からもちょうと考えていただければ、保育士さんにとってもありがたいことだなあと思います。機会があったら、そんな話題にも触れていただければありがたいと、そんなことを思います。

山田教育長 それでは、先へ進んでよろしいでしょうか。

○報告第2号 11月の行事予定等について

山田教育長 それでは、報告第2号、11月の行事予定についてお願いをいたします。資料6ページです。主な日程を確認してまいります。11月の8日、9日に市町村教育委員会研究協議会が茨城県つくば市で開催されます。1泊2日の研修となりますけれども、全員の御参加をお願いいたします。それから15日に市P連教育行政懇談会が行われます。また、20日午後になりますが、片丘小学校でこんにちは教育委員会、さらに25日土曜日、全国短歌フォーラム in 塩尻の学生の部があります。11月の定例教育委員会は28日であります。翌日が鶏鳴会となりますので、2日間連続ということになりますが出席をお願いいたします。11月の行事予定について、御質問、御意見ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、次に進みます。

○報告第3号 後援・共催について

山田教育長 報告第3号、後援・共催についてお願いをいたします。資料の7ページ、8ページです。見ていただいて、御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

〔「特にありません」の声あり〕

山田教育長 よろしいでしょうか。それでは、次に進みます。

○報告第4号 塩尻市教育振興審議会委員の委嘱に係る教育長専決報告について

山田教育長 それでは、報告第4号、塩尻市教育振興審議会委員の委嘱に係る教育長専決報告についてであります。資料の9ページとなります。事務局から説明をお願いいたします。

太田教育総務課長 それでは、報告第4号、塩尻市教育振興審議会委員の委嘱に係る教育長専決報告についてお願いします。去る10月17日火曜日に開催されました塩尻市教育振興審議会委員の委嘱につきまして、委員の選考に時間を要したことから、教育長専決により行いましたので報告するものでございます。

塩尻市教育振興審議会条例第3条の規定により、識見を有する者として3名の方を選出し委嘱させていただきました。再任が2名、新任が1名となっております。委員の任期は、平成29年10月1日から平成31年9月30日までの2年間です。

なお、教育振興審議会につきましては、今年度中に全5回の開催を予定しており、教育委員会の事務事業の自己点検評価、それから教育振興基本計画の見直しについて審議していただく予定となっております。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。御質問、御意見ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、報告のとおり、御承知おきいただきたいと思います。

4 議事

○議事第1号 社会教育主事の発令について

山田教育長 続きまして議事第1号、社会教育主事の発令についてです。資料の10ページをお願いいたします。事務局から説明をお願いいたします。

胡桃生涯学習スポーツ課長 それでは、資料10ページでございます。社会教育主事の発令について

でございます。趣旨としましては、社会教育法第9条の4に基づき、次の職員が文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得し、社会教育主事の資格を有しましたので、塩尻市教育委員会より社会教育主事として発令をお願いするものです。

なお、この発令により社会教育主事は、市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員となり、社会教育を行う者に対し専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担うことができます。

任命の日付としましては、来る11月1日付。職員としましては、2名でございます。安藤寿秀君、濱野みふゆさん、この2名でございます。なお、この2名につきましては、本人のたつての希望により修得したものでございまして、今後の職務に十分生かしていただきたいということで、発令をお願いするものでございます。私からは以上です。

山田教育長 ありがとうございます。社会教育主事の発令について、御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

林委員 今、このお二人の方は希望でこの資格をお取りになったということですが、もう1点お聞きしたいのは、例えばこういう通信教育的なもので、授業料とかいろんなもので費用がかかると思うのですが、そういった場合は、市からの援助とかがあるのでしょうか。

胡桃生涯学習スポーツ課長 実は、こちらの社会教育主事が修得する今回は長野市の信大で講座が行われました。約1カ月間でございます。2人については塩尻市から通いで、1カ月間通っていただき単位を修得したということでございまして、実はこれにつきましては職員係で職員研修の予算を持っていて、当初は1名分の予算で濱野さん1人分だったのですが、後から安藤君がぜひ取りたいということで、後追いでお願いをして全て全額市の負担で修得をしたものでございます。

林委員 わかりました。ありがとうございます。

山田教育長 よろしいでしょうか。ほかにはよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、採決いたします。議事第1号につきましては、原案のとおり決することよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

山田教育長 それでは、異議なしと認めて、原案どおり2名の者を社会教育主事として発令することと決しました。

○議事第2号 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

山田教育長 議事第2号に進みます。平成29年度全国学力・学習状況調査の結果についてですが、資料11ページから17ページであります。事務局から説明をお願いいたします。

黒澤主任学校教育指導員 それでは、お願いします。本年の4月18日に実施されました平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について報告をしたいと思います。

調査の目的ですが、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることと、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する目的で行われました。本市では、小学校6年生9校574人、それから中学校3年生6校567人に実施しました。

調査の手法と項目でありますけれども、児童生徒につきましては、教科に関する調査と質問用紙に関する調査が行われました。学校に対しては、質問用紙による調査が行われました。

調査結果であります。まず教科に関する調査結果であります。小学校6学年は、国語A・B、算数A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均の正答率を上回る結果でした。特に算数A・Bについては大きく上回りました。中学校3年生は、国語A・B、数学A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均の正答率を上回る結果でありました。今後の対応については、11ページから12ページ

の前半に書いてあります。

次に、児童生徒に対する質問用紙の結果についてであります。12ページの下のあたりからずっとあるわけですが、質問用紙の状況を見ると、全国よりも数値が上回っていていい結果であります。1つ課題となるところだけお話ししたいと思います。14ページの、真ん中より下のあたりですが、ゲームやインターネットの使用時間についての調査であります。棒グラフで、テレビゲームの平日の1日の使用時間の割合が載っております。この調査を見ますと、本市では、ゲームを1時間以上している小学生、中学生は50%を超えております。それで、1日当たりのテレビゲームの時間が長いお子さんにつきましては、教科の正答率が低いという傾向があります。個人差が大変大きい項目でありまして、保護者の協力を得て1日の生活時間の有効活用を呼びかけ、ゲームのスイッチを切るとか、スマートフォンやPCの使用の約束とか制限等の具体的な取り組みを一層進めていく必要があると思います。

15ページのところですが、学校質問用紙の結果からであります。(1)の教科指導につきましては、子供たちが課題を意識して主体的な姿勢で授業に取り組んでいて、教師と児童生徒が同じ方向を目指す授業がふえていると考えられます。それから、学校全体で成果や課題を共有して改善の具体策を考えて実行するなどのPDCAサイクルの確立ができつつあるということと、地域の人材を授業で活用しながら、よりよい授業ができるように工夫されていると思います。

16ページのところでありますが、S小学校の学力向上に向けた取り組みが載せてあります。平成25年から29年にかけて、教科の得点力がずっと上がっている学校でありますので、具体的にどんな取り組みをしているか知っていただきたいということでもあります。

最後、17ページへ行きまして、今後の取り組みであります。S小学校は、教師が子供一人ひとりのよさを認めて、支え合える集団をつくって、全職員が学校の重点に沿って指導方法を改善していくPDCAサイクルの中で学力が向上してきたと考えられます。この実践に学んで、「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を理念として、次のようなことを大切に考えていきたいと思えます。1つ目、教員の指導力の向上と授業改善。2つ目、塩尻市の重点施策を活かした生活の基盤づくり。3つ目、元気っ子応援事業を核とした個に応じた支援。4つ目、コミュニティ・スクールを活かした体験的・課題解決的な学習の充実。最後に、小中一貫した指導内容・方法の研究。その点を大事に教育委員会として考えていきたいと思えます。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。前回協議会からいただいた意見をもとに精査してまいりましたが、御意見、御質問ありましたらお願いいたします。

小澤教育長職務代理者 事前に修正案を送っていただいておりますので目を通させてもらいました。前回示された内容案よりもすっきりして見やすい、そんな感想であります。それで、文の中身を見させてもらうと、記述内容も記述の形式が一定であります。ですから読みやすいです。相当事務局も力を注いでくれたんだということがよくわかります。この文案で結構だと思います。

山田教育長 ありがとうございます。あとはよろしいでしょうか。

それでは、採決いたします。議事第2号につきましては、原案のとおり決することよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 異議なしと認め、原案のとおり公表することと決しました。

5 その他

山田教育長 それでは、その他、委員の皆様方から何かありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

その他、事務局のほうからありましたらお願いいたします。

上條図書館副館長 会議の前にお手元に資料を配らせていただきました。「りぶしる」という文字が左上にある資料をごらんください。これにつきましては、図書館サービス向上委員会という全国的な組織の情報公開サイト「りぶしる」というのがございます。そこから取材の依頼がございまして、塩尻市立図書館と広丘小学校が取材に応じました。元気な学校図書館プロジェクトという、その下に絵がついた枠の左から2つ目でございますけれども、それがリンクになってございまして、全国の学校図書館での先進的な取り組み事例として、塩尻市立図書館の学校連携と広丘小学校の学校図書館の取り組みが、全国の公共図書館・学校図書館と並んで公開されております。きょうは記事の内容につきましてはお配りしてございませんけれども、ぜひ機会を捉えてインターネット上でごらんいただければということでございます。

1月7日から9日に横浜市で図書館総合展という全国的な図書館のイベントがございまして、そこでも、全国の3館の代表の1つとして市立図書館の職員が学校連携について事例発表を行わせていただくことになっております。それから、図書館総合展の中で、地方創生レファレンス大賞というレファレンスサービスを表彰する制度がございまして、その最終審査が行われます。塩尻市立図書館のビジネス情報相談会の事例を応募しましたところ、最終審査に全国から3館のひとつとして残りまして、当日審査を受けることになっておりますので、あわせてお知らせいたします。

それから、10月12日、13日に全国図書館大会が東京で行われまして、ここでも、図書館とまちづくりというテーマで、ぜひ塩尻市立図書館に発表してほしいという日本図書館協会の求めに応じまして、館長が、本の寺子屋を中心とした塩尻市立図書館の取り組みを全国の場で発表をいたしました。このように市立図書館の取り組みを全国的に発信しておりますので、ぜひ御承知おきいただければということでございます。よろしく申し上げます。

山田教育長 ありがとうございます。

小松交流支援課長 交流支援課からチラシをお配りしてございます。夕焼けの写真のチラシでございますが、写真家吉村和敏さんの講演会でございます。吉村さんは田川高校の第1期生でございます。卒業後、世界を旅しながら撮影活動を続けておられまして、数々の賞を受賞された写真家でございます。講演会とあわせて図書館で写真展を実施しております。御聴講をお願いいたします。以上です。ありがとうございます。

山田教育長 ありがとうございます。あとはよろしいでしょうか。図書館はいよいよ全国レベルで発信していただいております。ぜひこの「りぶしる」の中身を見てみたいと思います。また、世界の美しい風景を求めて講演会へぜひ足を運んでいただければというように思います。

6 閉会

山田教育長 本日予定されておりました案件は全て終了いたしました。以上をもちまして10月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございます。この後ですが、3時30分からこの場で引き続き総合教育会議を行いますのでよろしくお願いいたします。

○ 午後3時00分に閉会する。

以上

平成29年11月28日

署名

教育長

同職務代理者

委員

委員

委員

記録職員 教育総務課
教育企画係長
